

内子町は、松山から特急で 30 分。駅前広場では、かつて内子線を走っていた蒸気機関車(S L)が訪れる人を出迎えてくれる。その内子駅から東に伸びる 2 車線道路は、かつての内子線の線路跡。左右の歩道は、南京ハゼの並木道として親しまれ(かぶれる心配はありません)内子小学校生、内子高校生の通学路になっている。南京ハゼの並木道を歩くこと 7 分。旧内子駅跡地に建つ木造瓦葺き 2 階建て(一部 R C 造)の建物が、我が内子町図書情報館である。設計は、木造建築で有名な吉田 桂二さん。設計のテーマ「林の中で本を読む」に象徴されるように、館内は木組が直接見えるトラス工法で、やすらぎの空間を醸し出している。図書館に欠かせない書架は、試行錯誤の上、製作された。地元の木工職人の手づくりなので、なかなか味がある。書架と書架の間は、車椅子も通れるスペースとなっている。

利用者の皆さんには、全員靴を脱いでいただくので素足。これが、子供連れの保護者の皆さんには、意外と好評で、子供たちは、書架の前に座って自分の読みたい本を探すことができる。一般の方にも抵抗なく受け入れられたところを見ると、日本人は靴を脱ぐとほっとする遺伝子を持っているのかもしれない。



ゆったりとした木組の空間。木の香りに包まれて本を読む。

一般・児童図書など閲覧図書は、すべて 1 階に。2 階にはギャラリーと視聴覚室がある。隣接の自治センターとは渡り廊下で連なり、施設の利用は必要に応じて相互にできる。視聴覚室では、毎週土曜日におはなし会を、3 グループのボランティアの皆さんが交替で実施している。絵本の読み聞かせ、紙芝居、素話、パネルシアターなど思い思いの工夫で子供たちを楽しませてくれる。テレビやゲームで読書離れが云々されるけれど、おはなし会や本を借りに来てくれる子供たちの表情を見るにつけて、子供たちは決して本嫌いではなく、読書環境を整えることこそが大人たちの役割で

はないかと思う。大きくなって、「木造の図書館によく通ったなあ」と思い出してもらえるような図書情報館になれば最高なのだけれど。

内子町図書情報館のもう一つの自慢は、読書グループの活動。内子町には、現在 11 グループで構成する内子町読書グループ協議会がある。昭和 48 年に発足。県立図書館の読書会協力図書(10 冊文庫)や内子町図書情報館の団体貸し出しの利用グループで構成される。図書情報館の新築にも、読書グループ協議会は大きな支援組織となり、今でも内子町読書活動推進の母体となっている。



第 33 回内子町読書活動研究集会(平成 19 年 11 月 9 日)

読書グループ協議会では、年 1 回読書活動研究集会を開催。大会運営も 1 グループ 1 役を担うという良き慣習によって、まさに手づくりの大会となっている。昨年の第 33 回研究集会では、「せせらぎ読書会」が全国優良読書グループとして表彰され、内子町では「あざみ読書会」に続く受賞となった。今後も、読書グループの連携と育成によって、内子町の読書人口とコミュニティの輪を広げていくことが大切だと考えている。

図書情報館も新築して 4 年。おはなし会をはじめ毎月 1 回の文学講座(参加費は有料)、赤ちゃんに絵本を手渡すブックスタート、第 2 回を迎えた内子町読書感想文募集、館内企画展示など、運営にも広がりが出来つつある。しかし、内子町の山間地に住む人にとっては、図書情報館へは距離が遠いことも事実。1 回も利用したことがないという人も多く、そのような人たちにどのような方法で資料提供をしていくかが課題の一つでもある。移動図書館車がない、職員は少ないなど、確かに条件は厳しいけれど、「地域の関連施設と連携しながら届ける」図書館のシステムづくりを検討していきたいと思う。

(内子町図書情報館長 大野 千代美)

ホームページでご覧いただけます！「資料情報」

「愛媛県内公共図書館所蔵 逐次刊行物総合目録」

愛媛県内には現在、公立図書館 29 館、分館 13 館があります。各図書館が継続して購入している雑誌、新聞を収録した総合目録を愛媛県図書館協会が平成 13 年度より発行していますが、その最新版を、愛媛県立図書館のホームページでご覧いただけます。

「愛媛県立図書館所蔵 新聞目録」

県立図書館が所蔵している新聞を収録しています（平成 18 年 11 月末現在）。原紙、縮刷版、マイクロフィルム版、複製版の所蔵状況がご覧いただけます。

閲覧、複写（当日分以外）が可能です。前々月以前の新聞は、3 階一般閲覧室カウンターでご請求ください。

「愛媛県行政資料目録(藩政期、明治期篇)」

藩政期から明治 45 年までの愛媛県行政文書 4130 点の目録を掲載しています。3 階一般閲覧室カウンターでご請求ください。

「愛媛県内住宅地図一覧」

県立図書館が所蔵している愛媛県内の住宅地図一覧です（平成 18 年 11 月 1 日現在）。平成 15 年から 17 年にかけて実施された市町村合併までの所蔵状況を示しています。

「畝順帳」・「畝順帳肩書更正類」索引

天正 19 年から明治 21 年までの伊予八幡土地関係資料 3477 冊のうち「畝順帳」・「畝順帳肩書更正類」を、旧村名から史料の請求番号を検索できるよう索引にしました。平成 15 年 3 月末の郡市町村名対照表付き。

他にこんな情報も掲載しています。

「愛媛県市町史誌所蔵状況」

「愛媛県史所蔵状況」

「愛媛県市町広報所蔵状況」

「愛媛県内高等学校・特殊学校・中等教育学校発行の記念誌所蔵状況」

どうぞご利用ください。

かげうら

「景浦文庫」公開します 平成20年1月スタート！

景浦家（松山市）には、著名な郷土史家であった景浦直孝（なおたか 号は稚桃）、景浦勉（つとむ）両氏の著作物をはじめ、郷土史研究のために収集された貴重な資料が所蔵されていました。勉氏の死後、平成 18 年 4 月に、長女の泉玲子氏からご寄贈いただきました。直孝氏は「伊予史談会」の創設者の一人であり、両氏は親子二代にわたり名誉会長を務められました。

資料は総数 5,348 冊に及び、一般図書と和漢古書に分けられます。一般図書の多くは郷土資料と日本史関係ですが、そのほかに、法制・経済・美術・文学・俳句と幅広い分野にわたっています。和漢古書については、国学・漢学といった学問関係のものがほとんどですが、江戸時代の著名な医家・蘭学者である青地林宗（あおじりんそう 郷土出身）の著作『氣海觀瀾』（きかいかんらん）も含まれています。

当館ホームページ上の蔵書検索にて検索可能。別置記号「カ」。館内閲覧のみ。

土地台帳データも一部公開 2月スタート！

県立図書館では、伊予八幡土地関係資料「畝順帳」・「畝順帳肩書更正類」の貴重な資料をできるだけ劣化の少ない状態で保存するため、平成 17 年よりデータ化を行ってきましたが、このほど最も利用の多い「松山地区」が完成しました。平成 20 年 2 月 1 日から、3 階第一閲覧室の専用パソコンでご利用いただけます。

なお、この松山地区につきましては、原本は資料保存のため閲覧を制限させていただきますので、なにとぞご理解いただきますようお願いいたします。

資料のデータ化に際しましては、多数のボランティアの方々に長期にわたりご協力いただきました。現在も松山地区に続くデータの作成にご尽力いただいております。今後、順次公開してゆく予定です。

この紙面をお借りしまして、ご協力いただきました多くの方々に厚くお礼申し上げます。

（図書整理係 中村 由紀、名田 美由希）

「子規の文友」極堂の足跡をたどる 「文字・活字文化の日」記念講演会

県立図書館では 11 月 3 日、松山子規会理事の二神 将(にかみ すすむ 写真)氏による「文友 柳原極堂の俳誌『ほとゝぎす』創刊と子規顕彰」と題した講演会を開催した。これは「文字・活字文化の日(10月27日)」記念行事として行われたもので、俳句愛好家ら 58 名が、極堂研究の第一人者のエネルギッシュな語り口に聞き入った。

二神氏は、正岡子規の功績を広めることに尽力した極堂の足跡や子規との交友歴などを、該博な知識の中から隠れた時代背景や面白いエピソードも巧みに織り込みながら紹介した。



極堂は、子規と同じ慶応 3 (1867) 年に松山城

下で生まれ、松山中学で親しくなった。東京遊学中に、子規は極堂の文才を認め「文友」としたという。帰郷後は新聞記者となり、新聞や出版を通して子規顕彰を叫び続けた。明治 28 (1895) 年、子規が大咯血し、夏目漱石の「愚陀仏庵」で 52 日間の静養生活を送ったが、極堂は日参して俳弟子となった。二神氏は「極堂は、子規に習った写生句を最後まで続け、純粋に子規をたどった。それは『吾生はへちまのつるの行き処』という彼の辞世句にも見て取れる」と語り、極堂の人物像に迫った。明治 30 (1897) 年には、子規らと共に俳誌『ほとゝぎす』を創刊。90 歳で生涯を閉じた。

「実に松山人らしい極堂。生涯、子規応援団長に徹した」と解説し、現在の「俳句王国愛媛」づくりに大きく貢献した極堂の功績をたたえた。

「図書館を彩るチラシ」出来上がり！ 第 44 回 愛媛県図書館講習会

第 44 回県図書館講習会は 8 月 24 日、県図書館協会や県立図書館等の主催により松山大学で開催され、県内の読書施設関係者等 112 名が集った。

午前の部の実践発表 では、久万高原町立父二峰小学校から「小さな山の学校のみんなで取り組む図書館活動 ～絵本賞読者賞の取組を中心に～」と題して、小規模校ならではの工夫に満ちた、心温まる報告がなされた。新刊絵本の中から最もすばらしいと思う絵本を選ぶという「絵本賞読者賞」(主催：全国学校図書館協議会、毎日新聞社)の実践校に選ばれたことを契機にして、読み聞かせ活動を、図書委員から学級担任、さらに全教職員、地域の図書館、ボランティアへと系統的・継続的に展開していく。スライドには、読書への興味が湧き、理解が深まり、そして、読書の幅が広がっていった子どもたちの輝く表情が映し出された。「図書館活動の活性化に必要なものはやはり『人』だと改めて感じている」(発表者 日野弘子教頭)の言葉が印象的であった。

実践発表 「ブックトークの効果的な取組と活動実践例」では、県立図書館 子ども読書係が、学校や公共図書館等における、子どもの読書推進のための活動状況と問題点を、詳細な調査データを基に報告した(P3 参照)。続いて、ブックトーク(テーマに沿って何冊かの本を順序立てて紹介する活動)を実演した。テーマは「生まれて、

生きて」、中・高校生に対する設定。『生まれてよかった』(広瀬飛一/写真、福岡光子/文、日本図書センター)、『学校で教えない性教育の本』(河野美香/著、筑摩書房)、『朝のひかりを待てるから』(アンジェラ・ジョンソン/作、池上小湖/訳、小峰書店)など計 6 冊を紹介した。参加者は聞き入り、その洗練された実践技術を学んだ。



午後は、(株)富士通オフィス機器の山下さやか氏らによる、パソコン実技講座「プロに学ぶ魅力的なチラシ作成のコツと実践」を行った(写真)。画面構成の基本パターン、目線の流れを考慮したレイアウト、文体や書体でのメリハリの付け方、フリー画像の取扱い(著作権の理解)など、学校や図書館等を彩る掲示物・チラシを効率よく作成するためのノウハウを、参加者は実習を通して楽しく学んだ。皆が思いを込めて創ったオリジナル・チラシ。さあ図書館へ！(普及係 富永 俊樹)

平成 19 年 4 月、子育て支援情報コーナーが 3 階第一閲覧室にできました。子育てに関する資料をふんだんにそろえ、毎回テーマを決めて展示を行っています。

これまで、子育てに関する図書はそれぞれ別の場所に並んでいました。今回、すべてをこのコーナーにまとめましたので、とても探しやすくなりました。

「出産・育児」「子どもの病気・こころの問題」「園や学校での生活」「親子問題」「幼児教育」「学校教育」「児童福祉」など、ジャンル別に並べています。



子育て支援情報コーナー テーマ展示

例えば、「赤ちゃんにすてきな名前を付けたい！」「離乳食の作り方が分からない...？」「保育園と幼稚園の違いは...？」「子どものアレルギーについて知りたい」……このような疑問や悩みが出てきた時には、ぜひ、子育て支援情報コーナーにお立ち寄りください。解決の糸口がきっと見付かりますよ。

子育て真っ最中のお母さん、お父さん方はもちろん、保育、教育、子育て支援などに携わる、多くの皆さんのご利用を心からお待ちしています。

子育て支援情報コーナー 雑誌リスト

- 『家庭教育ツーウェイ』明治図書（月刊）
- 『現代と保育』ひとなる書房（月刊）
- 『子どものしあわせ』草土文化（月刊）
- 『実践障害児教育』学習研究社（月刊）
- 『そだちの科学』日本評論社（年 2 回）
- 『児童心理』金子書房（月刊）
- 『母の友』福音館書店（月刊）
- 『育てる』財団法人育てる会（月刊）
- 『ちいさい・おおきい・よわい・つよい』『おそい・はやい・ひくい・たかい』ジャパンマシニスト社（隔月）

子育て支援情報コーナー おすすめの本

...請求記号

- 『子どもへのまなざし』 1998 379.9-292
- 『続子どもへのまなざし』 2001 379.9-292-2
- 佐々木正美/著 福音館書店

子育て中の様々な悩みや迷い、「こんなときどうすればいいの」に答えてくれる、とても気持ちの優くなる本です。『続～』は「子どもへのまなざし」に寄せられた疑問に丁寧に答えてくれています。

『みんなで子育て！ からだ編』

『みんなで子育て！ くらし編』

山田真/監修 ジャパンマシニスト社 2006 599-シ-2006

赤ちゃんから小学校入学くらいまでの子どものからだと病気、成長とこころ、様々な不安に答えてくれる子育て・孫育ての本です。巻末に項目から引ける索引があります。

『はじめてであう小児科の本 改訂第三版』

山田真/著 福音館書店 2002 493.9-マ-2002

子どもの病気について症状別に分かりやすく、そして、親を安心させるよう、専門用語を使わず丁寧に説明してくれています。

『がっこう百科』岡崎勝/編著

ジャパンマシニスト社 2005 376.2-マ-2005

子どもが小学校に入学すると、登校班、準備物、欠席する時の連絡方法、PTAなど... 分からないことがいっぱい！ そんなときにこそ、この本の出番です。

『チャイルド・ヘルス』診断と治療社（月刊）

『世界の児童と母性』資生堂社会福祉事業財団（年 2 回）

『母子保健情報』社会福祉法人恩賜財団母子愛育会（年 2 回）

『私たちの生活学校』（財）あしたの日本を創る協会（年 6 回）

（相談係 齊藤 桂子）

愛媛県立図書館の利用案内

【付近略図】

【開館時間】

火曜から金曜...午前 9 時 40 分から午後 7 時まで
土・日・祝日...午前 9 時 40 分から午後 6 時まで
子ども読書室...午前 9 時 40 分から午後 5 時まで

【休館日】

月曜日（祝日の場合は、直後の平日）
年末年始（12 月 29 日～1 月 3 日）
特別整理期間（10 日以内で館長が定める日）
館内整理日（毎月末日、ただし、その日が上記休館日、土・日曜日に当たるときは館長が定める日）

【駐車場】

図書館専用の駐車場はありませんが、県庁西駐車場（旧国際交流センター跡地）をご利用できます。ただし、駐車台数に限りがありますので、できるだけ公共交通機関のご利用をお願いします。

編集・発行 愛媛県立図書館

〒790-0007 松山市堀之内

TEL 089-941-1441 FAX 089-941-1454

<http://www.library.ne.jp/ehime/>

e-mail: tosyokan@pref.ehime.jp